

大好き！絵本

初瀬 恵美



『りゅうのめのなみだ』
作:浜田 広介
絵:いwasaki ちひろ
出版社:偕成社

おめでとう
おめでとう
おめでとう

新型コロナウイルス感染症が5類になり、初めて迎えた新年。おそらく、コロナ禍とは違ったお正月を過ごされたご家庭が多いのではないのでしょうか。私も岐阜の実家で数年ぶりに過ごした年始。妹家族と買い物の帰宅途中の夕暮れに、突然、緊急地震速報を車内で聞きました。響き渡るアラーム音に緊迫感がありました。まさかここまでの被害が広がるとは思いませんでした。熊本地震の時に経験した余震の怖さや、先が見えない恐怖などを一度に思い出しました。

多くの方の命や生活基盤が失われ、命が助かっていまだ極寒の中、救助や支援が行き届かずにつらい思いをされている方々が、一日も早く、心から安らぐことができる日が再びくることを願います。

今月の絵本は、「辰年」ということにちなみ、『りゅうのめのなみだ』をご紹介します。

主人公の男の子は、昔から人々に恐れられていた龍を「怖い」とは、思わずに「かわいそう」に思っていました。そんな男の子を人々は「不思議な子」と思っていました。誕生日の2・3日前、男の子は龍を探しにでかけました。そして、いくつもの山を越え、野宿をして、やっとみつけた龍を誕生会に誘いました。すると龍は、思いがけない優しい言葉に目から涙があふれました。今まで人間からは、嫌われ、憎まれ続けてきたからです。龍に会いに来て優しい言葉をかけてくれたことが嬉しくて、涙がでたのです。龍の目からあふれる涙はやがて川になりました。男の子が川のように涙で流されないように、龍は男の子を背中にのせてくれました。そして家まで運び届けてくれるうちに、船へと姿を変えていったというお話です。

浜田氏は山形県の童話作家で「日本のアンデルセン」とも呼ばれています。日本の児童文学の先駆的存在で、作家人生50余年の間に、約1000編もの童話や童謡を世に送り出しました。(浜田広介記念館HPより抜粋) この原作はなんと1925年に書いていたそうで、文章を綴り直し、適度の量にして1965年に出版されたそうです。その40年の間には第二次世界大戦がありました。あとがきには、そのことが一切触れてありませんが、多くの悲しみ、苦しみを経験した激動の時代を経て、出版に至った作品です。浜田氏はあとがきに「ひとつの善意が次の善意をうんでいくアカシ(証明)を、この作は語っている」と記しています。そんな素敵な思いを詰め込んだ絵本が、浜田氏の作家人生よりもながく出版されつづけ、読み継がれる代表作となっています。

また絵を描かれた いwasakiちひろ氏もとても有名な方で、ご存知の方も大勢いらっしゃると思います。優しい水彩画の中にも登場人物の豊かな表情が描かれていて、絵を通してさらに物語の奥深さを感じることができます。

心がほっこりとあたたまる素敵な作品です。どうぞお子さんと物語の世界を味わってみてください。



お誕生日おめでとうございます

